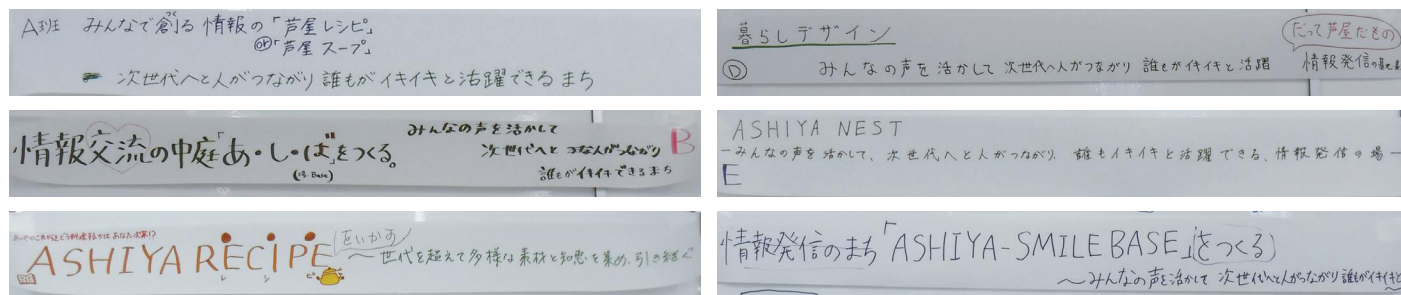


いよいよワークショップ案が決まる？！

延長戦！熱気と緊張が入り混じる会場



ここからは、限られた時間で最終案を作る必要があるのですが、ベストな決め方ではないかもしれませんが、自分がいいと思った案に投票を行い、投票数を見て案を絞っていくこととしました。

その結果、ほぼ同じ票で二つの案が残り、決選投票を行いました。なんと全く同じ票になってしまいました。そこで、お互いに再度プレゼンをしたり、投票のルールを少し変えたりしましたが、同数が数回続きました。

最後は二者択一ではなく、それぞれの案に「YES」と「NO」で意思表示をしてもらい、わずかな差で「情報発信のまち『ASHIYA SMILE BASE』をつくる ～みんなの声を活かして 次世代へつながり 誰もがイキイキと～」を残すこととなりました。

そして、この案についてさらに全体の意見を集約していき、メインのフレーズは「ASHIYA SMILE BASE」をワークショップ案とすることができました。サブタイトルについては「みんなの声を活かして 次世代へつながり 誰もがイキイキと」をもとに考えましたが、最後まで固めることができず、このワークショップの議論を踏まえて、事務局で調整を行うこととしました。

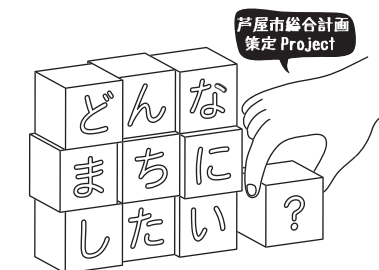


今回ワークショップで出来上がった将来像の案を起点に
内部・外部での議論や検討を重ね、
総合計画の基礎となる「基本構想」を作り上げていきます。

(問い合わせ) 芦屋市役所 企画部政策推進課 芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-38-2127 (直通) FAX 0797-31-4841

SouKeiNEWS

No.04 芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第4号 2019年2月
芦屋市政策推進課発行



市民ワークショップ 最終回



2019.1.19 (土) 第5回市民ワークショップ

テーマ：

将来像の
ワークショップ案を
つくりあげる

第4回に引き続き、「将来像」のワークショップ案を決めるための議論を行いました。芦屋市の未来に向けた、参加者それぞれの思いが込められた言葉を生み出すため、白熱したワークショップになりました。

果たして、ワークショップ案を決めることはできたのでしょうか…？

いよいよワークショップ最終回スタート

今日でどこまでできるのかを共有



10月から始まったワークショップもいよいよ最終回。この日も冒頭はワークショップのここまでの振り返りと、着地点の確認をおこないました。

この最終回で、今後10年間の基本構想のうち、将来像のワークショップ案を決めていきます。基本方針については、前回の意見をもとに今日の議論で出された意見も踏まえて整理することとしました。

ブラッシュアップの方向性

みんなの声を活かして
次世代へと人がつながり
誰もがイキイキと活躍できる
情報発信の基地・基盤

「ASHIYA BASE」をつくる

サブタイトルとして活かす

求心力のあるメインの言葉とする

将来像については、第4回のワークショップで一番支持の多かった「みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと活躍できる 情報発信の基地・基盤『ASHIYA BASE』をつくる」の案を基に考えることとし、前回の意見として、

- ①文章を短くシンプルにすることや主題となる単語が欲しいといった意見があり、できるだけ短く求心力のある言葉が望ましい
- ②前回の案の中でキーワードは「ASHIYA BASE」にある
- ③しかし、芦屋市内に同名の店舗があることや、福岡県の芦屋町にある「芦屋基地」と混同される可能性があることなどから、そのまま将来像として使用することは難しい

以上の点から、「ASHIYA BASE」に込められた思いを表す他の言葉を見つけ、メインの将来像の言葉とし、前半部分「みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと活躍できる」については、サブタイトルとして併記するスタイルが、前回皆さんに選んでいただいた案の内容を変えないで、かつ、これまでにない新しい感を出して目を引くものになるのではないかと考え、この方向でワークを進めていくこととしました。



ワークアウトが続きます

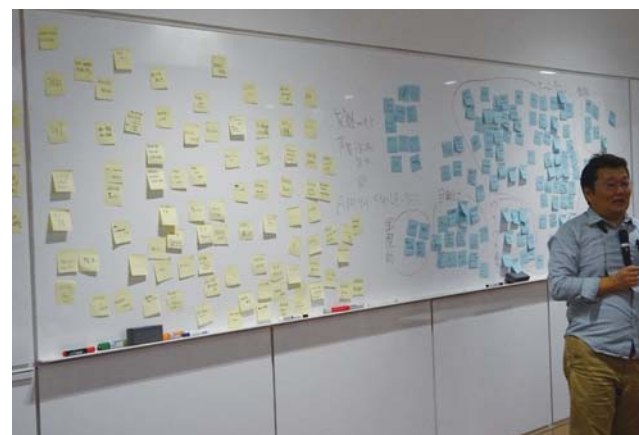
「ASHIYA BASE」の本質を掘り起こす

まずは、「ASHIYA BASE」に込められた思いや、なぜこの言葉をいいと思ったのかを、第1回目のワークショップで練習したブレインストーミング（プレスト）の手法を思いだし、短時間でできるだけたくさん出しました。

このワークの結果、大切にしたい思いとして「ホームタウンとしての芦屋」を核として「未来」「国際的」「ワクワク感」などが抽出されました。



思いを表す言葉を出し切る



次のステップとして、込められた思いを表す言葉を、同じくプレストの手法を使いひたすら挙げていくワークを行いました。フセンに書かれたアイデアをファシリテーターの浅見さんが読み上げ、それを聞いてまた新しい発想に結びつけ、次々と言葉を出していきました。

2段階のワークの後、グループで最終的な将来像を考えていくワークに入りました。

ここまでのプレストで出されたアイデアを踏まえながら、まずはメインのフレーズを固めていき、そこからサブタイトルも言葉も推敲していくという手順を踏んでいきます。

先ほどまでの発散から、文章に収れんさせていくのはやはり難しく、順調にコンセプトを固めて言葉をつないでいくグループもありましたが、多くのテーブルで頭を悩ませ、意見を慎重に交換しながら、将来像を作成していきました。

そして、それぞれのグループがブラッシュアップした6つの将来像の案が出てきました。

